

## X. ベトナム社会主義共和国

### <要約>

	概要	特徴
1. 市場環境の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会構造 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総人口：9,264 万人（世界第 13 位、2015 年 IMF 推計）</li> </ul> </li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経済環境 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人当たり GDP：2,164 ドル（世界第 133 位、2016 年 IMF 推計）</li> <li>・ 実質 GDP 成長率：6.1%（2016 年 IMF 推計）</li> <li>・ 1 円=194.98 ドン（2016 年 12 月末）</li> </ul> </li> </ul>	
2. 金融制度概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○銀行等の業態分類（機関数、総資産シェア、根拠法） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国有商業銀行（7、45.6%、2010 年与信機関法）</li> <li>・ 民間商業銀行（28、39.5%、2010 年与信機関法）</li> <li>・ 合弁銀行・外国銀行現地法人・外国銀行支店（順に 2・5・50、合計 10.2%、2010 年与信機関法）</li> <li>・ 人民信用金庫（1,147、1.1%、2010 年与信機関法）</li> </ul> </li> <li>○監督官庁：ベトナム国家銀行（SBV）</li> <li>○金融資産 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 銀行預金残高（2015 年 12 月末）：5,045 兆ドン。うち、普通預金が 688 兆ドン、定期預金が 3,717 兆ドン、外貨預金が 640 兆ドン。</li> </ul> </li> <li>○銀行による貸出等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内非政府貸出残高（2015 年 12 月末）：4,693 兆ドン</li> </ul> </li> <li>○預金保険制度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベトナム預金保険機構。1 金融機関、預金者一人当たり、5,000 万ドンが保証される。</li> </ul> </li> <li>○金融税制（主な金融所得税率） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 預貯金利子：銀行・信用機関への預金からの利子は非課税。それ以外の利子は 5%課税。</li> <li>・ 投資商品：配当金は 5%、キャピタルゲイン純利益の 20%または売却価格の 0.1%課税。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国有商業銀行の預金残高、融資残高のシェアが低下している一方、民間商業銀行の預金残高、融資残高は増加しており、両者のシェアは均衡しつつある。</li> <li>○預金保険機構の設立根拠を法律にするとともに、預金保険の法的規制を強化し、関連の法的書類の有効性を高めるため、2012 年 6 月 16 日に預金保険法が設立。</li> <li>○証券投資よりも銀行預金を優遇した税制。</li> </ul>

<p>3. リエンベト郵便銀行の概要</p>	<p>○郵便貯金制度・経営形態</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2010 年までは、ベトナム郵便貯金サービス会社はベトナム郵便公社内の独立採算組織であったが、2011 年に民間商業銀行であるリエンベト銀行と合併し、リエンベト郵便銀行となった。</li> </ul> <p>○郵便公社等との関係・拠点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リエンベト郵便銀行は 2015 年 11 月時点で、国内全 63 省/市にある約 100 店舗及び、約 1,100 の郵便局 (Postal Transaction Office, PTO) を通じて預金/貸出サービスを提供している。</li> </ul> <p>○サービス内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民間商業銀行になってから、預金のほか、住宅ローンを始めとする各種貸付を行っている。</li> </ul> <p>○郵便貯金残高</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2015 年 12 月末で、郵便貯金の残高は 23 兆ドン (預金残高全体の 25%)。</li> </ul>	<p>○ベトナム郵便貯金サービス会社とリエンベト銀行が合併したことにより、資本金や総資産等が急激に増加したとともに、ネットワークが拡大した。</p>
<p>4. 金融セクターにおけるリテール金融機関の特徴</p>	<p>○リエンベト郵便銀行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 郵便貯金サービス会社と民間商業銀行の合併で誕生したが、ベトナム郵便公社と異なり、ユニバーサルサービス義務は課されていない。</li> <li>・ 国内金融機関の総資産に占めるシェアは 1.5% (2015 年 12 月末)。</li> <li>・ 民間商業銀行として、他行に順ずる多様な商品を提供しているほか、協力関係にあるベトナム郵便公社が年金口座に関する唯一のサービス提供者と定められたことから競争優位を得ている。</li> </ul> <p>○人民信用金庫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中央のベトナム協同組合銀行と、1,147 の人民信用金庫によって構成される。政府が 99%を出資し、会員からの出資は 1%のみ。</li> <li>・ 国内金融機関の総資産に占めるシェアは 1.4% (2015 年 12 月末)。</li> <li>・ 人民信用金庫は会員/非会員両方から預金を受け入れることが出来るが、貸出は原則として預金をしている顧客向けに限られる (貧困家計の特例を除く)。</li> </ul>	<p>○リエンベト郵便銀行の預金金利は国有商業銀行とほぼ同水準だが、民間大手商業銀行より若干低い水準。</p>

<p>5. 最近の金融動向と今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リテール・バンキングへのシフト <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナムの銀行は不良債権問題を抱えており、足元では改善が見られるとはいえ、リスクが高い企業向け融資には慎重である。そのため、リテール・バンキングの重要性が高まっている。</li> </ul> </li> <li>○マイクロファイナンスなどソーシャルファイナンス <ul style="list-style-type: none"> <li>・2011年の与信機関法により新たに規定されており、預金の受入、国内/外国借入などにより資金調達している。貸出はドン建てのみとなっている。</li> </ul> </li> <li>○リエンベト郵便銀行の動向 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナム郵便公社のネットワークを活用して業績を拡大させており、特に農村部へのサービスを一段と拡充させたい考えである。</li> <li>・法的な制約から郵便局（PTO）拠点数は1,100から増やせない状況となっているが、新規認可を求めている状況である。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○銀行口座を保有している国民は2割程度であり、銀行等を補完するものとして、マイクロファイナンスやインターネット・携帯電話を利用したリテール金融が注目されている。</li> </ul>
-------------------------	--	--